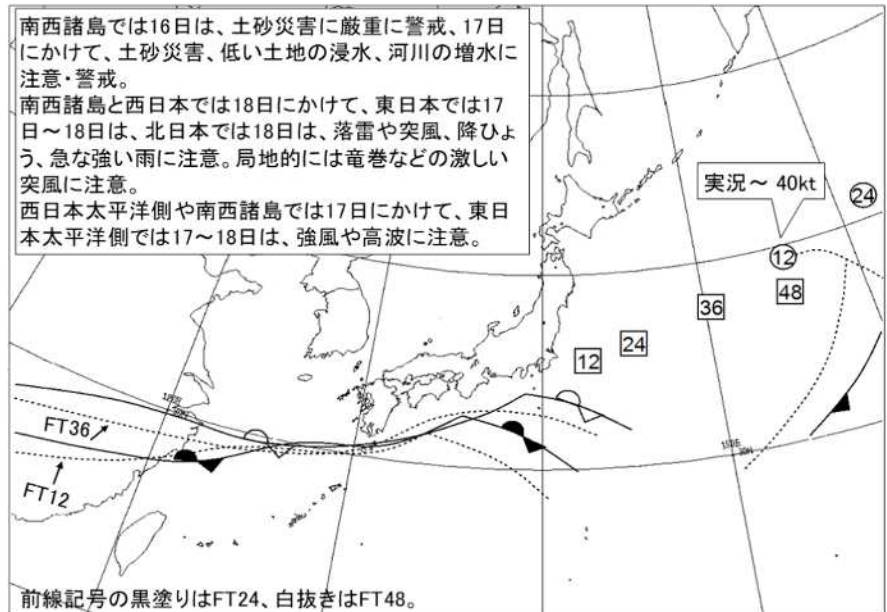


1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が日本の東を東北東進。この低気圧からのびる寒冷前線は日本の南の停滞前線につながっており、さらに九州の南から東シナ海にのびている。この前線近傍や前線の南側では、四国沖と東シナ海に活発な対流雲を含む雲域があり、発雷を検知し、局地的に非常に激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5760m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフがモンゴルを東南東進。水蒸気画像では回転が明瞭。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の停滞前線は太平洋高気圧の強まりにより、18日にかけて日本の南を北上して東日本太平洋岸にのびる。前線に向かう下層暖湿気の流れ込みにより大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。特に、南西諸島では17日にかけて、1項①の東シナ海の活発な対流雲を含む雲域の流れ込みにより留意。南西諸島では16日は土砂災害に嚴重に警戒、17日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。南西諸島と西日本では18日にかけて、東日本では17日～18日は、落雷や突風、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項①の前線の周辺では強い風が吹き、波が高くなる所がある。南西諸島では17日にかけて、西日本太平洋側では18日にかけて、東日本太平洋側では18日は、強風や高波に注意。
- ③ 1項②の寒気を伴うトラフは東南東進し、18日にかけて日本海に進む。上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる。西～北日本では18日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本だが、前線の位置はMSMも考慮。量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。本州南岸の前線の位置には不確実性があることに留意。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]**
- ① 雨量(18時からの24時間)：九州南部180、四国・奄美・沖縄100mm。
- ② 波浪(明日まで)：近畿・四国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。